

2000年11月号

<主な内容>

サンゲール教会新会堂(1頁)

ツーサン教会のミニストリー(3頁)

北米ホーリネス教団の歴史(5頁)

OMS Holiness Church of North America

<http://www.omsholiness.org>

い い せ い 聖 聲

Web Version

サンゲール教会に新会堂が与えられました!

サンゲール教会・大川道雄



「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである。」ヨハネ五の十七

主イエスの御名によって、去年から今年にかけて、サンゲール教会に起こった出来事をシェアらせていただき、主の御名を皆様と共にさんびしたいとおもいます。数年前から、ビジョンコミティ

ーは教会にもっと車の駐車場がほしいこと、日曜学校の教室がほしいことをみんなで祈っていました。一九九九年の秋になって、英語部の先生と、近くにできる「マルカイ」というスーパードのとなり「カルバリーチャペル」があり、地理的にわかりやすいところなので、よくカルバリーチャペルが大きく売ると売って、新しい大きなところに行くので、そのときはわたしたちにまず話をして下さい、と申し込んでいました。そのやさに、不動産屋から、売り物の教会があることが知らされ、九月、十月と話しが進み、早速教会会議に発表され、ほんのわずかの反対がありました。大賛成のゴーサインがでました。新しい者で買えば四百万ドルか五百万ドルはするでしょう。わたしたちが願っていた、理想的な広さのアメリカンバプテストの教会が昔は三五〇人以上の大きな教会でしたが三十〜四十年のうちに三五名ぐらいになり、むかしはプリスクールまでしていた施設でした。これが百九十万ドルで売るといいます。この

チャンスは神様が与えて下さったのだとほとんどのひとたちが感じました。とんとん拍子に交渉が進み、本当は大変なことなのに、紅海の水が別れてその中をイスラエルの民が渡っていったようなことでした。問題はいくつもあるんです、しかしこの時はなぜかすいすいということがはこんでしまつて、みなでおどろきました。

交渉の結果、百六十万ドルほどにさがりました。今までの教会をインドネシア教会が六十万ほど買いました。2軒の教会の牧師館を売ると四十万弱になります。献金も集めました。百万ぐらいの最初の支払いがこの十一月になされます。残りの支払いは、五年の間に、今現在この大きな教会の中には三〜四つの教会が借りてしまつて四千ドルほどあり、それで月々の支払いがまかなえます。一月に一度は、建物を使用している団体が集まってコミュニケーションミーティングをもって調節しています。

部屋数が三十ほどあります。駐車場が百台分です。ウエストコヴィナの閑静な住宅エリアです。おどろくほどの環境が変わりました。スケールが小さな学校のようにになりました。とくに英語部の人達、サンデースクールの先生たちが週に何度も教会に来て、かたづけや整理やいろいろな仕事をみつけては働いています。

前からいた、アメリカンバプテストの年老いた方々が日本語部の聖書の学びの時もあちらの部屋でバイブルスタデーをしていますし、先日はエクアドルの尾崎一夫先生ご一向がきたときにもご招待してバイリンガルの集会をしました。インドネシアの団体や、スパニッシュの教会、もうひとつのメキシコの教会もみな上手に分かち合いながらこの大きな施設を使っています。みな良い方々です。

毎日のように、二世の方々が来て、掃除、修繕などにはげんでいます。三百人ぐらいははいるメイソチャペルの講壇のうしろがガラスぱりで、向こうがみえますが、お庭が出来ていました。早速二世の機動部隊が日本庭園にみごとに変えてしまいました。大きくなりすぎた何本かの大木を市の許可が

出次第、きります。公園の遊び場のものも多く、かたづけで花園にする計画です。まずトイレをきれいに立て直します。今年中には出来るでしょう。献堂式は一月の終わりが予定されました。本当に、神さまが働いておられることを深く感じます。

九月十二日(火)に、月例の南加牧師会が当教会で開かれ、先生方に施設を見てもらいました。葛原千秋先生から、葛原定市師の記念館の提案が出されています。検討中です。カンファレンスルームの構想も上がっているのです。先生方に見てもらいました。どうなるでしょうか。お祈りください。

教会を変えることになり、委員会により、教会員の投票により、決められていきました。今、サクラメントからの書類を待つて、発表します。

みなさまの上に主の豊かな祝福をお祈りいたします。

北から南から

通信員報告より

戸田アリス姉、サ
ンロレンゾ教会より
引退された戸田ジェ
ームス師夫人は十月
四日、脳腫瘍の手術を
受けられました。ただ
いま、ナーシングホー
ムにてリハビリテー
ションに励んでおら
れます。速やかな快復
と、ご家族のために覚
えてお祈りください。 伊藤通信
員

サンタクララ教会内外の修理工
事(屋根の葺き替え、冷暖房装置、
配線など)が最終段階に入りまし
た。一日も早く無事完了しますよ
うお祈りください。 伊藤通信員
WLA教会創立四五周年を記念
して姉妹教会のサウスベイ教会と
合同で下記のイベントが行われま
す。

・十一月二十五日(土) WLA教
会創立四五周年記念集会和夕食会
・十一月二十六日(日) 午前、W
LA創立教会四五周年記念礼拝
(メッセージ・鈴木栄一師)
・十一月二十六日(日) 午後、四
五周年特別伝道コンサート集会
音楽ゲスト・徳永英彰(ギター)、
田中保世+フラメンコダンサーズ、
ペドロ・エウスターチェ(フルー

ト)、WLAユースクワイヤ、WLA
教会聖歌隊、伝道メッセージ・
鈴木栄一師 牧通信員

サウスベイ教会の安藤由美子姉
は日本でのリハビリテーションを
終えられ、十月二十一日(土)無
事にロサンゼルスに戻られました。
引き続き安藤姉のためにお祈り下
さい。 牧通信員

九月三十日(土)南加牧師会主催
の千代崎秀雄師による信徒のため
の「信仰セミナー、聖化の道」が、
オレンジ郡キリスト教会で、午前
十時から十二時まで、途中皆様か
らの質問を挟んで、行われました。
南加諸教会の皆様四一名が参加さ
れました。 馬場通信員

十月七日(土)サンデイエゴ・
キリスト教会とピスタ日系キリス
ト教会と当教会の三教会合同信徒
訓練会が、九ヶ月ぶり、当教会
において持たれ、大倉信師から、
「礼拝について」学びました。
光岡通信員

サンデイエゴ教会の倉野ジュデ
イ姉が心臓移植のため、体力が強
められますように。ドナーが与
えられますようお願いください。
ラッド通信員

ホノルル教会では十一月十二日
(日)、十二歳までの子供の祝福式
があります。 松田通信員

ツーソンのミニストーリーはとて
もユニークです。完全なるバイリンガルのミニストーリーです。勿論、
ある人々は日本語の方が英語よりも
良く理解出来、他の人々は英語
の方が日本語よりも良く理解
出来ず。しかし、言語と文
化を超える一致をこの所で感
じます。

去年の九月からパートタイムでJCCTで牧会をさせて
頂いてますが、ここにおける
神様の素晴らしい働きを見て
感謝で溢れんばかりです。ほ
とんどの教会では、牧師がい
て当たり前、そして牧師を欲
しがっています。ここでは、
牧師がない状態で始まり、
ある意味では今でも牧師無く
ても十分にやっていけるよう
に思えます。しかし、牧師が
欲しいのです。私はこの願い
に応じれてとても感謝してい
ます。こう言うわけで私の任
務は、今まで他の人がやって
来た事に乗っ取って続けるの
では無く、これまでのミニスト
リーを支援しながら、必要に応じて
新しいミニストーリーを始めること
です。

現在、私を含めて、七人で結成

バイリンガルの ミニストーリー

ツーソン教会・本多一米

シリーズ・私たちの教会のユニークなミニストーリー
Japanese Christian Community of Tucson (JCCT) の巻

されているリーダーシップチーム
があります。私たちは、月一回集
まり、教会のニーズについて話し
合います。これらのミーティング
で全員が自分の意見を自由に発言

ています。これは十人位の子ども
たちも含みます。礼拝と平行して
子どもたちの為の日曜学校を開い
ています。子どもたちは、礼拝の
前半は大人と共に参加します。こ
の時に子どもメッセージがあり
ます。礼拝で語られるメッセージ
と日曜学校のレッスンは同じであ
るよう、コーディネートしています。
礼拝と日曜学校はバイリンガルで
行なっています。メッセージもバ
イリンガルです。

聖日礼拝とは別に、三つのコ
ノニヤグループがあります。これ
らのグループは日本語で行なっ
ています。二つのグループ（家庭集
会的な集い）は月に二回持たれ、
大学生のグループは毎週吉谷礼子
姉の家で持たれています。吉谷姉
の大学生へのミニストーリーは素晴
らしく、多くの学生が彼女の愛の
働きを通してキリストにある救いに
預かっています。現在約十五人の
学生が熱心に来ています。

また、毎週二つの週の半ばの集
会（祈禱会的な集い）があります。
ツーソンは幅広いので、一つは町
の東側で、もう一つは北西側で持
たれています。東側の集会は英語
中心で、北西側の集会は日本語中
心で行なっています。

定期的に、教会員の家族と友人
へのアウトリーチを目的とした行
事が企画されています。過去には、
ピクニックや山でのキャンプング
をしました。次はソフトボールの
試合とバーベキューを計画してい
ます。こう言う行事は、日曜日の
礼拝に来る事に抵抗を感じている
人々との接点を作る為のものです。
他に、毎週一回アリゾナ大学内
で「むすびタイム」をしています。
おむすびを食べながら、交わり、
週の終わりにむすびをつけます。
大学生との接点を作る為に始めら
れたものです。

ツーソン近辺には、三十近いゴ
ルフコースがあります。日本人の
サラリーマンに人気があるゴルフ
近い将来、この人々を対象にゴル
フミニストーリーを始める予定です。
ツーソンの日本人人口は少ないで
すが、日本人がいるから神様は私
たちをここに置かれたのです。私
たちの目的は、このツーソンに住
んでいる一人一人と接点を作り、
この人々にキリストの証しをする
事です。神様が人との出会いを作
って下さる事を確信しています。
続けてJCCTの為に祈って下さ
い。感謝致します。

フレンド派（クエーカー）の人々
に対する感謝を表わそう！

オレンジ郡教会・杉村 幸

戦前戦後を通じて、フレンド派
クリスチャンはいつも私たち日本
人、日系人の側について協力を惜
しまなかつた人達である。日米戦
争の最中でも協力して下さったの
は、彼らフレンド派であり、そし
て彼らだけであつた（The Only
Ones Who Stood By Us . . . A
Western Quaker Reader by
Anthony Manousos）。彼らがいかに
協力的であつたかを見てみよう。

排斥の最中の一九〇七年頃か
ら、南加において日本人伝道に門
戸を開き、日本人伝道者を招いて
までも伝道している。

一世、二世がキャンプに隔離
される時に、軍のバスで連行され
たが、その時にそれぞれの座席に
ランチを置いて慰めてくれた。

キャンプ幽閉中も、それを訪
問し、多面にわたつて助けてくれ
た。

キャンプから出た人達は、排
斥のただ中の西海岸に帰ることに
なる。その時にはエスター・ロー
ズ女史（皇太子殿下英語教師）等
が中心となつて大きなホステルを
開いて助けてくれた。

「南加教会連盟は率先して、す
べてのキリスト教会がその門戸を
開くように尽力した。メリノー
ル・カトリック教会はもとより、
地元アメリカ人教会も協力を惜し
まなかつたが、その中でもっとも
早く準備され、そして大きかつた
ものは百五十名も収容できる「エ
ヴァーグリーン・ホステル」と呼
ばれるボイル・ハイツにある建物
で、フレンド教会の人々によつて
運営されていたものである。フレ
ンド派の人々は、戦争の始まつた
時点から既に、敵国人であつた一
世、二世に対して常に暖かい配慮
を惜しまず、勇敢なまでに助けの
手を差し伸べてくれたのであつた
が、キャンプから帰還する人々に
対しても、またもや多大な援助を
惜しまなかつたのである。ちなみ
に80年前、ホイットニアのある教会
を借りて集會が持たれていた時に
リヴァイバルが起こり、それが燃
える炎となつて東洋宣教会口サン
ゼルス教会が発足したのであるが、
その時の教会も実はフレンド派で
あつた。私たちは、彼らに多くの
愛の負い目がある」（北米ホーリ
ネス教団機関紙「靈声」二〇〇〇
年五月号抜粋）

「やぎのおじさん」で有名な
ニコルソン先生もフレンド派であ

り、戦後の日本を支えた「ララ物
資」の発送等もフレンド派の人々
の協力による。

では「なぜ今、フレンド派に対
する感謝なのか」というと、この
地には、日系の博物館があり、二
世部隊の勇敢な働きなどは良く知
ることが出来るが、フレンド派ク
リスチャンの犠牲的な愛の行為を
知る者は、今日の私たち日本人日
系人クリスチャンの中にもほとん
どいない。戦前、日本人伝道に携
わつてきたアメリカ人宣教師でさ
えも、戦争勃発後は同じ教派の日
本人に対してさえ門戸を閉ざして
いたという時に、フレンド派の
人々がほとんど半世紀にわたつて
一世、二世を助けてきたという行
為は、どれだけ忍耐と勇気を必要
としたことであろう。現在の私た
ちがあるのは、日系二世達の死を
も賭した行為だけではなく、それ
に優るとも劣らないフレンド派の
蛮勇とも言つべきキリストの愛の
行為があつたことも、決して忘れ
てはなるまい。

新しい世紀を迎えようとする記
念すべき時に、「AD2000L
Aクリスマス・セレブレーション」
（十二月二十三日開催）という、
超教派で、日英両語で、しかも私
たちの手づくりの集會が開かれよ

うとしている。このような集いは
南加の日本人教会の歴史の中でも
初めての試みではなからうか。そ
のような栄えある場において、彼
らフレンド派クリスチャンに対す
る謝意を表わすことは、何よりも
時宜を得たことであり、また私た
ちの在米日本人、日系人の大きな
特権でもある。

確かに、一九四六年の九月に南
加教会連盟主催で、四面楚歌の中
にあつた一世、二世達のために、
あらゆる努力を惜しまずに、尽力
してくれた米人教会連盟指導者や
フレンド・サーピス委員会の関係
者達を、東一番街の「江南楼」に
招待し、謝恩晩餐会を催して、
二百五十名の出席者があつたと南
加日本人七十年史にはあるが、終
始私たちの側に立つて、痛みを共
にし、様々な難局を共に乗り越えて
来てくれた信仰の友、フレンド派
クリスチャン達に、今この時に、
声を大にして私たちの心からの感
謝を捧げたいと思う。私たちは、
彼らのキリストの故に捧げられた
献身的な愛を決して忘れてはいけ
ないと思うからだ。それは私たち
在米日本人、日系人クリスチャン
の聖なる務めであり、また何より
も神に喜ばれる事だと思つのだが、
如何なものであろうか。

東洋宣教会・北米ホーリネス教団史(その二十)

戦後篇

オレンジ郡キリスト教会牧師・杉村 宰

戦後、まもなく教会活動が再開

されることによって、著しい働きが見られたものに、幾つか上げられるが、その一つは二世が一世に変わってリーダーシップを取り始めたということである。一世の礼拝出席者数は、一九六二年までは、

一世が多かったのであるが、一九六四年以来逆転している。ちなみに、一九六四年の礼拝出席者は日本語部が四百三十三名で、英語部が四百五十八名となっている。ロサンゼルスに教会が始まってから四十年を経て、ようやく一世から二世への世代交代を見た訳である。

その理由としては、もちろん一世の子供達が英語部に流れるという自然発生的要素も、大きな要因ではあるが、それにもまして、二世の霊的リーダーシップが大きなパートを占めていることも否めない事実である。礼拝献金に関しては、礼拝出席人数に見る世代交代よりも数年早く、一九六〇年にその顕著な差が見られる。ちなみに同年

の日本語部の年間献金総額は\$七一、五五九であり、英語部のそれは\$七八、三五一である。この期間にわたった一世の時代がようやく終わり、新しい世代のリーダーシップが台頭することになる。

そもそも、二世の台頭は時代の必然であった。戦前までは子供達は日本語を話す親たちの下にいたので、英語による礼拝はなかったのである。しかし英語の日曜学校というものはあった。ロサンゼルス教会では葛原千秋先生によって、子供達を集めて持った集会在英語によるもので、多い時には六十〜七十名も集まったと聞く。しかし、戦時中に中西部に設けられた各強制収容所に入れられたクリスチャン達は、他の様々な教団のクリスチャンとの合同の礼拝を経験する。もちろん英語部と日本語部に分かれて礼拝がもたれた訳だが、そこでは英語礼拝を初めて経験した二世の日曜学校の子供達も少なからずいたであろうことは、

想像に難くない。

北米ホーリネス教団での最初の英語による礼拝は、戦後直後の一九四五年に、八尋ジョージ先生によってロサンゼルス教会で始まっている。八尋先生は教団の創始者の一人であり、もとより二世であるから、本来は日本語よりも英語の方が良かったのである。同時に、それらの創始者によって育てられた、いわゆる二世牧師である篠田

ダン先生も、じつは八尋先生と同じ一九四五年に英語部の牧師として、サンロレンソ教会に遣わされている。八尋先生の後のロサンゼルス教会には、末広先生が日英両語部の牧師として遣わされ、英語部の牧師としては一年間奉仕された後で、黒田章先生が一九四七年に後任として遣わされている。黒田先生は葛原千秋先生と共に、戦争が始まった直後の一九四二年、日系人の将来を憂いた東洋宣教会総理のカウマン夫人によって按手礼を授けられている。

戦後の日系人教会の著しい働きの第二は、二世牧師のヴィジョンと宣教の拡大である。例えば一九四六に始まった若い二世達の朝教会フェローシップが実と結んで、一九五〇年にマウント・ハーモン

修養会となり、それがやがては JEMS (Japanese Evangelical Missionary Society) になった。この二世達の働きに関係したホーリネス教団関係の牧師達としては、篠田ダン先生、常石アーサー先生、橋本泰先生(戦後はホーリネス教団に所属しなかった)、木村連先生達である。実にこれらの日系人教会の中心的な働きの背後には、ホーリネス教会の牧師達が大きく参与していたのである。

著しい働きの第三は、一九五四年に私たちの教団の政治形態が、監督制から委員会制に移ったことである。それまでは監督が牧師の転任をはじめとして、全ての教団の政治決定に参与していたのである。リーダーシップがうまく発揮されている時はいいのだが、同時にまた多くの弊害もあった。特に牧師の転任に関して、一方的な決定がなされたこともあり、牧師達や諸教会の中から、監督制に対する憂慮の声が浮かび上がってきて

いたのである。

ちなみに、葛原定市先生が初代北米ホーリネス教会監督であったのだが、この教団が始まった一九二〇年から監督であった訳ではない。私たちの教団に監督が生まれたのは、日本ホーリネス教会で中田重治監督によつて分裂問題が起つた時に、北米としては、その事件に関わることをよしとせず、自立して北米独自の道を歩もうと決心した一九三五年である。同年四月の「霊声」の消息に以下のよう

に記されている。「日本教会のよき諒解のもとにその管理を離れて自治自足の形となりたるわが教会は、東洋宣教会北米日本人ホーリネス教会の名称のもとに、去る一月の第一回総会にて監督政治を採用し、満場一致、葛原師を監督に選挙」とある。つまりそれまでの私たちの教会は、日本ホーリネス教会（戦前は教団ではない）の傘下にあつた訳である。

教団本部へのコンタクト

現在、教団は議長を含め11名の常務委員会によって運営されており、各常務委員は各委員会の長として、教団の常設委員会を担当しています。ほかに、常務書記二名と会計一名が教団事務を担当しています。常務書記は、常務委員会とローカル教会とのコミュニケーションを担当していますので、常務委員会へは、常務書記を通して行つてくださるか、議長または各委員に直接コンタクトしてください。

常務委員

議長	溝口俊治師(LAHC)	Email:lahcmizo@earthlink.net
教会開拓委員会	ロバーツ・ジョー師(FMACC)	Email:p_jar@yahoo.com
教育・出版委員会	辻本ルース姉(HCC)	Email:truth@hawaii.edu
財務委員会	小田ジーン兄(FMACC)	Email:geneoda@juno.com
伝道委員会	吉谷礼子姉(JCCT)	Email:reoyosh@aol.com
教理・調査委員会	米本ロブ師(SFVHC)	Email:robbyjr@earthlink.net
任命委員会	仲村ブライアン師(SDJCC)	Email:emibrian@pacbell.net
福祉委員会	中辻ポール兄(WLAHC)	Email:pbnaka@aol.com
ペンション委員会	満留アート兄(WCJCC)	Email:amitsutomea@56801.pjc.com
世界宣教委員会	岡田千恵子姉(LAHC)	Email:chieko@aol.com
ビジョン・総合力研究委員会	伊達スタン兄(SFVHC)	Email:stan_date@candle.com

教団職員

常務書記(日)	藤岡二郎師(WCJCC)	Email:jiro@ix.netcom.com
常務書記(英)	山下ゲーリ兄(SLZJCC)	Email:gyama@richochet.net
教団会計	奥井國男兄(SLZJCC)	Email:yokui@aol.com